４０年の原研生活で思うこと

佐野川　好母

私は東海研究所で３２年、大洗研究所で４年、東京本部で４年を過ごした。最初は、国産一号炉（JRR-3)の研究開発に従事した後、昭和４４年、故村田副理事長の命を受けて高温工学試験研究炉（HTTR）の前身である多目的高温ガス実験炉の開発計画を立てた５人のうちの１人だが、それ以来、最後まで高温ガス炉の研究開発、HTTR の建設に従事するかたわら、最後の約３年は、併行して原子力船「むつ」の解体、原子炉と燃料の陸揚げを行い、燃料の東海村への搬送を見送って、原研を退職した。

高温ガス炉の技術は、学問的にも未知未開発のことが多く、それだからこそ苦労しながらもやりがいを感じて鋭意研究開発に取り組んできたが、昭和の後半、役職についてからは当然のことながら外部との交渉、地元の方々と接する機会が多くなり、むしろそれが本来業務となった。高温ガス炉は大洗研で現在 HTTR が稼働中だが、昭和４４年の当初計画以来、臨界まで実に３０年以上の歳月を要した。

HTTR の設置に当たって、地元の理解と協力を得るために、いろいろな方とお話しをしたことは、今でも忘れられない思い出である。国会議員も含む各方面の関係者、町役場の関係者、農業、漁業に従事している方々などともお会いし、一研究者として原研の中に閉じこもっていては分からない一般の方々の不安などに、じかに接することになった。

私が大洗研に赴任したとき、地元の方々に HTTR の説明や、建設計画の話をしたとき受けた多くの質問の中に、次のようなものがあった。

①研究所の周辺で白血病で死んだ人が２人いる。排気筒から放出されている放射性ガスのためではないかと思うが、どうか。排気筒直上の測定結果を見せろ、そうでなければ専門家に依頼して我々が独自に測定する。

②原子炉停止の記事が頻繁に新聞に載るが、原子炉に欠陥があるからではないのか。

③チェルノブィリやスリーマイルの事故、特にチェルノブィリでの死者はＩＡＥＡの報告では５６人となっているが、後遺症でその後亡くなっている人も少なくなく、また多くの人が今でも白血病などで苦しんでいる悲惨な実態を、この間テレビ番組を見て初めて知った。これでも原子炉は安全と言えるのか。東海村で起きたＪＣＯの事故を見ても安全とは思えない、どうなのか。

①については私も、その方面の専門家ではないので、一般的な意見を述べるに止めて、後日専門家に学会公認の資料を使って説明して貰ったところ、お前たちは数字を並べてごまかそうとしているのか、と言われたときはどうしようもなく、学問的に認められている統計資料に基づいてお話しするのが、一番分かり易いと思っただけで他意はない、と答えるのが精一杯だった。

②原子炉停止の記事が頻繁に新聞に載ると、なにか欠陥があるのではと思うのは、無理

からぬことだろう。でも、たとえ停止の原因が周辺機器の不具合であっても、原子炉にそのような不具合を生じるような機器が付いていることこそ問題ではないのか言われると、老朽化もこれありというわけにもいかず困ったことがある。でも、逆に些細なことでも停止しない方が問題だと思うがと答えると、それはそうだろうけど、なんとかならないのか、とも言われた。

③確かにチェルノブィリは悲惨な事故であったが、スリーマイルは同じような事故であったにもかかわらず、格納容器があったために周囲に問題となるような放射性物質の漏えいがなかったこと、日本の原子炉はすべてこれと同じように厚いコンクリートの格納容器に収められているので大丈夫だと説明してきた。じゃあ、ＪＣＯの事故はどうなのかと迫られて、あれは原子炉ではないと言っても、一般の人には原子炉との区別がつかず、核物質を扱う装置なんだから同じことだろうと、納得してもらえない人が少なからずいた。

こうしていろいろ疑問をぶつけてきた人たち、拳を振り上げてけしからんと小突いた人たちとも、時間は掛かったが最後には、食事をしたり酒を酌み交わして、お互いざっくばらんに話ができるようになった。

それまで私は「むつ」とはまったく係わりがなかったため、当時の反対運動そのものは直接経験していないが、漁業関係者の方々と食事をする機会があったとき、どういうきっかけだったかは忘れたが、その中の１人から「俺たちはヘルメットを持っているわけではなく、だいたい原子力船のことははっきり言って分からない。あのときも、どこからかヘルメットをかぶった反対派の連中が現れて「むつ」の出航を阻止したが、俺たち仲間の大部分は本気になってあの行動に参加した奴はいないと思うよ」という意外な話を聞かされたことがある。また「なにか不信感を持つとしたら、ごまかしやトラブル隠しがあったという報道がときどきあることだ。嘘をつくこと、隠すことだけはしてくれるな。もちろん人間だから間違うことだってあるだろう、故意でなければ、後で間違っていたと言ってくれれば、それでいい。繰り返し言うが、俺たちは原子炉のことなど分からない、分かるのはお前たちの顔色と言動だけだ、原子力の必要性は分かる。俺たちはごまかさない誠実な人の言うことを信じて協力するしかないんだよ。頑張ってくれ」とも言われたが、これこそ一般の方々の本当の気持ちではないかと思った。

人間同士でも、お互いの立場をよく理解して、尊敬し信頼し合う人間関係を保ってこそ住みよい社会の環境が生まれる。つまるところ、一般の方々に「あいつの言うことだったら間違いない」と思って貰えることが何よりも重要だと思っている。原子力のＰＲも、やさしく分かり易くということは、１人でも多くの方々に理解して貰うために、これまで以上に工夫と努力を重ねていかなくてはならないが、その努力と併行して、原子力に携わる我々は日常の言動にも心を配り、過信や奢ることなく常に反省しながら努力すべきであるし、大衆はそれを見ている。だからこそ我々は謙虚な気持ちで一般の方々と向き合わなければならないというのが、私のこれまでの経験から得た思いである。